いわき民報
発行所　いわき民報社
平市田町一番地（電話三一八番）
人行兼編輯人　千葉克己
印刷人　千葉克己
定價一部五十錢　一ヶ月参円

富ケ浦病院
院長　安田善一
小名濱町中坪（電三三番）
自宅小名濱驛前電二四一

さて今年の春蠶は！

見返り物資として浮び上る

養蠶の増産も生糸が唯一の有力見返り品として、大きく浮び上つたのに連れ、即食糧の増産と共に、期間中を通じて蠶一貫匁に對し米一升の割合で養蠶家に加配、又蠶具その他の配給をも約束、極力増産に拍車をかけることになつた、縣も呼應桑園二万町歩、收繭三百六十万貫を目標に養蠶五ケ年計劃を樹立する始末に、石城地方事務所蠶糸家でも掃立三割増の反當九貫匁以上の收繭を目指して、養蠶家に呼び掛ける一方技術員錬成會等を開催大童だが、果して養蠶家の努力が、荒廢しつくした桑園と乏しい肥料から今春蠶をどの位とるか？大きな期待をかけて注視されてゐる

一齡まで共同飼育

掃立量は二萬二千グラム程度

郡下の養蠶家は戰前は約五千戸と算せられたにも拘らず現在は三分の一の千五百戸、桑園も三百二十九町三反歩とあるが、今春蠶の掃立は目下のところでは二萬二千グラムで、收繭は戰前の五分の一の一萬五千貫程度とみられてゐる、地方事務所でも桑園その他の關係から急激に増産も出來ないので、催青は勿論掃立二齡迄は各實行組合に共同飼育せしめると共に桑葉の節約その他の点から、條桑育を奬勵反當九貫匁の目標實現に極力全力を傾注して指導することに決定した

桑の發育は順調

平坦部十日掃立
山間部廿日前後

石城地方事務所蠶糸課の觀測に依る今春蠶況は、掃立は大体平市を中心として平坦部が十日、組田町地方が十二日頃、山間部はこれより幾分遅れ入遠野地方十四日水戸方部二十二、三日川前地方る見込み、桑の發育は順調な氣候に惠まれてゐるため極めて良好で、今後晩霜さへ見ねば平年並は大丈夫從つてこのまゝでゆけば、先づ三萬五千貫の收繭は動くまいとのことである

産蠶の割當

石城地方事務所蠶糸課では今年度各町村の産蠶割當を次の如く行つた（玉屑蠶も含む、單位貫）泉一〇、渡邊二〇、植田二〇〇、山田一、二〇〇、錦一〇〇、上遠野六〇〇、入遠野一七〇〇、川部四〇〇、田人一六三〇、飯野三〇、夏井三五〇、高久一五〇、豊間一一〇、磐崎三〇、好間二〇〇、赤井八四〇、永戸箕輪一、三〇〇、澤渡三坂二、〇〇〇、神谷二〇〇、草野二〇〇、大浦一一〇、四倉三〇、大野四五〇、上小川一、六九〇、川前一、五二〇、平三〇〇、計一五、一九〇

檢査の國際化

市郡の蠶糸業者も實現要望

生糸貿易の再開お機に、横濱、神戸の國立檢査所の國際化が強く要望され始めた、從來は國立檢査所で格付後、輸出國先で再び業者の檢査を受けてゐたものだが今後は聯合軍管理下の輸出なので價格が統制される好條件を種に檢査所の國際化により米國業者の指導の下に格付けを統一、萬國共通のものたらしめんとするもの實現の曉は合格糸は原票のまゝ取引されるので生産消費の兩者共安心して賣買し得る譯となるので市郡下の蠶糸業者もこれが實現に拍車をかけることゝなつた

四月の出炭

目標より六千噸減

常磐各炭礦の四月中の出炭量は石炭統制會に齎らされた速報に依れば十三萬四百六十トンで目標の十四萬トンに達しなかつた これは例年の現象で四月から六月までは前年度の整備期間としてヤマでも出炭量低下は認めてをり、加へて年に一度のヤマの公休日山神祭も丁度この時期に當つてをり、特に今年は隅田川炭礦に水害あり約千五百トンの石炭が積出せなかつたのも大きな原因になつてゐる

漂着彈丸でまた重傷

湯本町加藤みどり二男明（二二）は江名町永崎の親戚に遊びに來てゐる中附近の子供と五日午前十時頃海岸に漂着してゐる野砲の雷管を弄び爆發右手を手首から失つた

水不足の心配なし

空入梅でなく雨は多い見込み

ツツジに藤に牡丹に菖蒲——初夏の景氣は新緑と共にいよ〳〵濃かならんとしてそよ吹く五月の薫風に『もう夏が近い！』と人々を喜ばせてゐる、暦面上では六日は〝立夏〟になつてをりこれからは日一日と氣溫も上昇するばかりであるが、今年の夏はどんな型でやつて來るだらう？、小名濱測候所安島技手に夏の空の長期豫想を打診して見た——

今夏の天候長期豫報

例年より七月稍々多く八月は平年並若くは稍々勘ない見込です、特に梅雨期は稍々いちじるしく平年より一度五分ばかり高めでしたが今年の夏は平年と稍々同じ暑でせう、ただ七月は例年より幾分高溫で八月は平年並、雨量は平年並、雨量は平年並若くは稍々勘ない見込です、特に梅雨期は稍々いちじるしく平年より雨量が多いだらうと豫想し

選擧運動の責任問ひ

内田課長排擊

石城農業會

職員會で辭職勸告を決議

今次總選擧で農業會石城支部長古川傳一氏の選擧運動を行ひ、問題となつてゐた同支部次長大森圭介氏は責任を問はれて田村郡支部へ左遷された爲去る一日自發的に辭表を提出退陣したが大森次長と責任を同じくすべき總務課長内田節太郎氏が現職に戀々とし、退陣どころか今回の改組で業務課長に榮進し、然し威壓的に『職員會などやめちまい』と暴言を吐くに至つた爲、職員會から内田課長排擊の狼火が上り、去る二日の職員會議に引續き、六日の職員會で退職を勸告する決議を爲し、二十二名の全職員署名の上小林代理支部長へ手交、農業會の民主化を期し町村技術員も合流して飽まで闘爭する空氣濃厚と成り、成行きを注目されてゐる

決議

過般の衆議院議員選擧に前支部長古川傳一氏を擁立し、爲に兎角の非難を受けて遂に之が責任者として次長大森圭介氏は今次異動を機に退職せるも大森次長をして事前に至らしめし責任の一半は次長と共に古川氏を擁立せる貴下にありと信ず、然るに貴下は次長をのみ死地に陥れて恬として恥ずることなく依然として其の位地に戀々たるは道義的にも生等の斷じて承服し得ざる所なり

然も新聞紙上等に兎角の評が掲載されるや自己の非による筆誅を職員會の責任の如く斷じ、公然職員會壓殺の言辭を弄するは壓制また極れりと云ふべし、生等は石城支部刷新の爲、茲に職員會の決議により貴下に對し即時退職を勸告するものなり

職員二十五名署名

引揚者の家庭調査

引揚者磐城聯盟では今度世話人會の結果、緊急事項として左の項目別に各個人の家庭調査票の作成を決定、實際問題の解決に積極的に乘り出した。

一、生活狀況　一、職業狀況
一、困窮狀況　一、勞働希望狀況
一、歸農希望狀況　一、住宅建築希望狀況等で猶驛前の休憩所は聯盟員各自の共同奉仕で交代に引揚者の接待、案内等に當る事になつた

難しい求人條件

引揚者と復員者の就職狀況

平勤勞署では窓口に現れた海外引揚者並に復員軍人軍屬の就業狀況を調査中だつたが次の如く數字が現れた、何れも前職へ斡旋濟である

（海外引揚者）前職から見ると男は勞務係三名、農業技術員二名、一般勞務者三名、事務員一名、商人一名で年齡別では二十歳から三十歳まで三名、三十一歳から四十歳まで五名、四十一歳から五十一歳まで二名、一方女子側は事務員三名、教員一名で二十歳から二十五歳まで三名、二十六歳から三十歳まで一名となつてゐる

（軍人軍屬）前歴は炭鑛勞務者十二名、機械工十一名、事務員五名、大工二名、硫酸工二名、電工二名、鍛治工二名、塗裝工二名、店員二名、運轉手一名、宮衛一名、運送業一名、教員一名その他三名これを年齡別に見ると十八歳から二十歳まで一名、二十一歳から三十歳まで三十二名、三十一歳から四十歳まで十九名、四十一歳から五十歳まで二名であつた

この引揚者と復員者の就職熱を比較すると引揚者は氣分が落付かないためか本腰的でない、一方求人者側の意向を聽くと獨身者は簡單に採用するが家族持は手當を多く支給せねばならぬので敬遠され勝ち、然も通勤可能の者を希望してゐるため就職條件が難しくなつてゐる、またこれ等の就職者は平均月收五百圓位を希望してゐるが實際は二、三百圓位しか支給されないため相當生計には難しい模樣である

會津米のお禮に塩

製塩組合を動員増産に邁進

石城地方の製鹽事業は着々軌道に乘り、各地域毎に自給製鹽組合も組織され自主的に増産へ邁進してゐるが、現在主なる製鹽工場は

◇四倉（古河礦業、本多辰吉四倉地區統制組合）
◇大浦（村農業會）
◇草野（縣並に村農業會）
◇夏井（村農業會）
◇高久（村農業會、根岸部落常會、共榮炭礦）
◇豊間（水産物製造業會）
◇江名（常磐炭礦、町農業會皆川太丸）
◇小名濱（日本水素、保土谷日立、東北配電）
◇錦（呉羽化學、大昭炭礦）
◇勿來（大洋産業、内山操、大日本炭礦、協和製鹽）

等で石城地方事務所では、之等製鹽事業の増産を奬勵すると共に一方會津米の移入を仰いでゐる現狀なので、特にその謝禮の意味で海岸線の特産物鹽をお禮返しに送るべく各製鹽工場を動員して増産運動に乘出してゐる

いわき寸言

▼勤勞署の窓口にみる引揚者及び復員者の就職狀況によると、求人側では獨身者を希望それも通勤可能を歡迎家庭もつ者は敬遠され勝ちとある、理由は手當を多く支給せねばならぬからといふにある、國の切換へから求人側も等しいので無理もないことながら引揚者や復員者のことであるも少し何とか溫い氣持ちで多少の犧牲を拂つても就職の門口を擴げてやつて欲しいものである、苦勞に苦勞を重ねて歸つた人々が、やれこれから新しい生活を建設しやうといふのに、かゝる狀態では余りに情なくはあるまいか、敢へて一考を煩したい

甦るスポーツ界

平市内各中等學校の學園にも時代の民主化の風は吹き込んで來た、戰時中軍事教練に沒頭してゐた中學生も今や自由なスポーツに伸び伸びとした青春の若さを發揮して、樂しく、明るい体育に興ぜられるやうになつたが、こゝで惱みの種はグランドの狹隘とスポーツ用具の不足である、然し若い中學生達は押へ難い情熱をそゝつぐ、この隘路を打開してをり、各校とも澎湃たるスポーツ熱が湧あがつて居る、以下は市内各中等學校のスポーツ界の動きである

用具類の不足さ　グランド狹隘が　惱みの種

多彩な各校の計劃

磐城中學

磐中では戰時中久しく廢されてゐた校友會が復活し生徒の自治的活動が始つた、先づ修錬科の名稱は廢され運動も興味と結びつけて生徒の自由選擇に任せるやうに昔の態勢へ還へた、今度復活した運動部は体操部、競技部、球技部の三部で更に体操部へは機械体操班、徒手班、角力班があり競技部には陸上競技班、水上班の二班、球技部は野球、バスケットボール、バレーボール、庭球の四班を設けた、そして從來の選手制度を改め代表を送る場合は生徒の自治選擇に依ることにしたが尙近生徒全体の總意に基いて運動部は運營を期すことになつたなほ校庭はその大部分が畑になつてゐるので來學期までには整備する方針である

校庭が小さいため野球は第一國民學校々庭を使用しテニスは元校庭の燒跡を整理する方針だが、バスケットボール、排球、卓球の用具は殆んど戰災して燒却して仕舞つたため資材入手するまで休止する、なほ現在までのうち生徒の希望は野球が第一位である

平商業

戰災したこの學校では運動具は一つもなく用具の入手が急務である現在は生徒各自が持寄つた運動具で僅かにスポーツに興じてゐる有樣だ、現在同校では磐中と本校燒跡の二ケ所に分れて授業中のため自然体育方向の整備も遲れてゐる、目下部制も實施せずひたすら用具の整備に重点を置いてゐる部制はまだ實施してゐないが野球と角力は農村出の多い同校では大いに奬勵してゐる、また學校で馬を一頭飼育してゐるので乘馬も奬める方針で更に同校が植田へ引越ずるから鮫川で今夏は水泳奬勵の計畫もあり現在の元青年學校跡では校庭も狹隘なので思ふ樣にスポーツも奬勵出來ないし植田への轉校をまつて本格的に乘出す豫定である

磐城農業

平工業

新生青年會　演劇大會

明日福島座で公開

小川郷の福島炭礦に四日生れた〝新生青年會〟では明八日全礦福島座で、第一回の演劇大會を開催する、今後は演劇は勿論藝能、辯論各般に亘り活潑な活動を開始するとある

空地利用を　極力勸奬

市民生活安定に

市役所でも本腰

一坪の土地と云へども遊ばせて置けない昨今の食糧事情に平市役所では空間地を最高度に活用して下さい……と市民の自給態勢の整備を奬勵してゐたが今度その第一回目增産用の諸苗を市民へ隣組を通じ一本二十五錢程度で五萬本を配給することになつたが一方進んで空間地も市民へ提供すべくその手始めに市内田町舊市役所跡約九百坪及び市内古館地内元軍用保護馬銀錬場一万二千坪を外地引揚者へ開放して開拓を進めると共に更に茄子とうもろこしの苗も配給すべく計畫中で農業技術員、篤農家等も動員して体驗から割出した增產會秘策を市民へ傳授すべき計畫も樹ててゐる

湯本町の公益質屋から見る　惱み拔く、新圓生活

これは新圓生活の惱みと一面には公局の資金は平局から廻されるための預金者の思ひ過し等からとみられてゐる

開放　戰災者配給

久しぶりで戰災者へふとん綿と番傘の配給があつた、雨傘のない時番傘の配給は非常に結構だが、型づくりのふとん綿には弱つた、品物が拂底してゐる時ぜいたくは云いたくないが一枚二百圓也ではどうにも手が出せない、これは私だけでなく配給券を受けた多數の戰災者が同樣の惱みであるまいか、何故かといふに、戰災者が一人千圓まで封鎖豫金を拂ひ出せる際だつたらどうにか買ひるが、生活費一人百圓と限定されて居り、第一この百圓でさい暮しやうのないほど物價高に苦しめられてゐるのだ、咽喉から手が出るほどふとんもほしいが金の出し道がないこれから夏に入るのだからふとんなどより、手近かなところで鍋釜だとか、ぼろ布をつくらう縫糸などの配給がよほどよい、市役所ではこんなことを考へてゐませうか、心身に成つて考慮して下さい（貧乏戰災者）

學生の交通道德

戰時中は、學生の交通整理が殊の外効果を擧げ、列車の乘降に農工鑛並に實業文化の各委員制度を設けた

政と文化活動に對する清新の氣を注入しやうと今度副團長の下に農工鑛並に實業文化の各委員制度を設けた

學生の通學者は戰時中とは逆に悪い方に目立つて來た、整列左側は何處へやら、このラッシュ時刻には一般市民の歩行を妨げること甚しい、學校當局に一言御注意申上げると同時に學生の反省を求める（武藏山人）

藝能文化　風俗時評

釜谷義男

あをいあをい空、あを空へ、蘭宣きをちぎつて投げた、群雀！を追つてる瞳みが、わか葉、あを葉の薫風を、腹一ぱい飽食してゐる鯉の吹流――をとらへた。五月の手帖として、風俗時評の筆を取る。――かきちぎられ、ひきぬかれても、なほ果敢にたたかふ雜草の意志と思想を、つたへて、働く詩人は、聖なる勞働者は、明るい未來への、希望に燃えて、高らかに歌ふ。搾取なき、明朗健康なる、職場獲得をめざして、一切の障碍を除去して、ひたすら、前進する、メーデーの足音を、平市、常陽銀行前の四ツ角に迎へる。敗戰が齎した、民主日本の、合法的勞働運動として、晴れて、街道デモも、アヂ演說も、檢束なし出來たことを想へば、今は、青森に疎開中の、メーデー歌の秋田雨雀老先生でなくとも、感無量である。昭和五年、血腥い軍國主義の、トラックが六尺棒にこぶしをかためた警官隊を、自由と、平和確立の生産に、集中されようとしてゐる。しかしながら、この時なほ、特高手帖を懷中して共に、昔日の夢を遂ふ資本家と、立上つた勤勞大衆の、頭を抑へ、團結を、阻止し反撃をうかがふ、反動の、足音に、耳を傾けることを、忘れちやいけない。街路に連り、轟く足音の渦卷に、自ら、醜ひしれてはいけない。祭典のための、祭典ではない。明日の日本の姿を、明確に、浮彫にするメーデーである。この点、炭鑛勞組のつるはし隊には、生活と、四ツに取組んだ、眞しさを見受けた一二の隊列から痴知のやうに、疲れた顏は、老けて、悲しかつた。早く、メーデー歌位、覺へて、參加して貰ひ度い。紡績女子隊であらうか、うしろ鉢巻姿はきりりとして美しかつた。働く美しさを、女性はどんどん發揮して貰ひ度い。靜的な美しさは、味の間の置物である。國鐵勞組平隊に一言、戰時中の國鐵の不名譽を一日も早く、あなたがたの手で、取戻すこと、萬人手が足りなかつた事が、今迄解らないので、友人や易者に聞いたりして漸くそれを知り、ある夜ひそかに男を訪ねる、かくて處女を捧げたマルタは、男の勤務先がチウリツヒへ變ると、マルタも同伴する。

その途中汽車の中で一緒になつた、もと給仕女をしてゐたといふ女が、いつかマルタの男を誘惑し、彼等がチウリツヒへ着くと、男はマルタを捨てゝ給仕上りの女の許へ走つてしまつたが、マルタの男を思ふ心にはかはりがなかつた。そして彼女は私は私の一生を彼に捧げてしまひましたのに、彼は私の所へ會ひに來ない――と嘆き、いつそ死なうとも思つた。又誰か來て本性を失ふまで辱しめて呉れゝばいゝとも思つた。斯くて男に捨てられたマルタは失戀の結果自棄となり遂に怪しげな家に夜を稼ぐ女となつた。――作の形式はマルタの詩のやうになつてゐる。（獨のフランク・ヴエデキントの作）

戀愛文學選　梗概

編みつか

〝女の牲犧〟

娘盛りのマルタは、ある冬の晩、勤め先の用事でお得意先へ使にやられたが、吹雪のために難澁してゐると、一人の紳士が親切にいたはつてくれた、それが緣となつて、交際する中に男の不名譽を一日も早く、あなたがたの手で、取戻すこと、萬人が遂廻しに肉の要求をするのだが、處女のマルタはその意味が

いわき俳壇

春曉抄　渡邊何鳴

春曉の燈の黃のうすれゆく
春曉の障子眞白に燈消ゆ
梨の花遠く野埃あがりけり
こゝろざし農耕にあり卒業す
道のべのはこべら靑く卒業す
卒業や松ヶ岡邊の梅白く
卒業の日の感傷を母に告ぐ

拂戻し一方

四月中の湯本局

湯本町郵便局の去る二日の預金は僅かに六百五十圓なのに對し拂戻しは實に二萬六百四十圓といふ桁違ひ、更らに四月中の狀況は預金二十万三百四十圓に對し拂戻しが七十五万圓とある、

笑へぬ喜劇

石鹸一箇で騷動

世知辛い世相は色々な悲喜劇を生んでゐるがこれも磐崎村にてをきた笑へない喜劇である――三日午後四時ごろ常磐炭鑛磐崎鑛北區共同浴場の女風呂から若い廿五、六才の娘さんが手拭を腰に卷いただけの裸体で道路へ飛び出して來て一人のお婆さんをとらへての押問答、『さあ出して下さい！』驚いたのは通行人で發狂でもしたのかと黑山

實は私の新しい石鹸をこの婆さんが盗んだのですと云ふ、『盗んだ』『盗まない』の押問答の結果、婆さんも裸になつての身体檢査になつたが到々出て來なかつた……と云ふ石鹸一の、獨裁から、解かれ、人民の

トロリー式
パーマネント
ウエーブ

開業
化粧品部高級化粧品豐富
メイ美容室
平市田町六七銀座通り